

多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及び  
その活動の質の向上等に関する研究

研究分担者：江口 有一郎      ロコメディカル総合研究所

**研究要旨：**肝炎対策の推進には医療者のみならず、患者や患者会・団体、患者家族や遺族を含む広く国民を対象とした肝炎医療コーディネーター（肝Co）が非常に重要視されており、令和5年度までに47都道府県のすべての自治体で約30,000名以上が養成されてきた。令和4年改正の肝炎対策基本指針においても肝Coの育成と活躍の推進の支援や活動状況を把握し、情報共有や連携しやすい環境整備の重要性が示されたことから、本研究では現状での肝Coの養成の方法や養成後のスキルアップ方法、配置場所に応じた効果的な活動の方法、コーディネーター間での情報共有や連携がしやすい環境や各医療制度の活用については地域間・施設間格差を無くし、均てん化に資する方策について具体的に検討する。また多様な病態である肝疾患患者等が各種の医療制度を利用しながら適切な医療に結びつくよう、肝Co等の活動を補助する資材を開発する。2年目は全国の肝Coの養成やスキルアップの方法において全国的に基礎となる養成要項となる地域特性に応じたオプション要項の策定と具体的な養成方法に資するため既存の当研究班のポータルサイトを全面リニューアルし、さらに教本となる資材の制作を開始した。職種別、配置場所別の肝Coに求められる本来業務における役割や肝Coの研修受講ならびにスキルアップにより得られる付加価値について2つのコンテンツ開発を行ない、活用を開始した。また2つの部会として肝Co部会では、経験豊富な肝Co目線でモデル拠点病院でのスキルアップ事業支援を継続し高い評価を得た。患者肝Co部会では患者講義をまとめた記録集を発刊し、「患者・元患者・患者家族・遺族肝Co活動マニュアル」の作成を進めた。

#### A. 研究目的

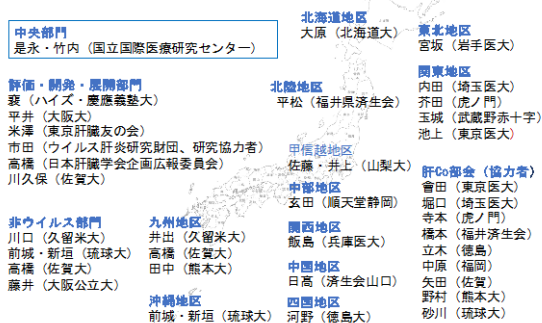
肝炎の予防及び医療に携わる人材として肝炎医療コーディネーター（肝Co）は支援や介入、肝炎に係る医療相談・支援体制の提供等が期待され、令和5年度までに47都道府県のすべての自治体で約30,000名以上が養成されている。我々は「肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究（平成29年度～3か年）」において、活動事例について全国規模での質的・量的調査に基づき肝Coの活動の支援方法やツールの開発を行ってきた。「非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成に関する研究（令和2～3か年）」では肝Co等の人材において二次医療圏を1単位として配置、活躍の方策をまとめ、また職種・配置場所別のマニュアル等の創出ならびに活動評価のための肝Coフォローアップシステムの開発

を行い、さらに近年増加している非ウイルス性肝疾患を含むトータルケアに資する人材育成の方策やマニュアル、各種コンテンツ開発等を行ってきた。本研究では、令和4年に改正された肝炎対策基本指針においても肝Coの育成と活躍の推進の支援や活動状況を把握し、情報共有や連携しやすい環境整備に努める事が重要と示されたことから、現状での肝Coの養成の方法や養成後のスキルアップ方法、配置場所に応じた効果的な活動の方法、肝Co間での情報共有や連携がしやすい環境や各医療制度の活用については地域間・施設間格差を無くし、均てん化に資する方策について具体的に検討する。また多様な病態である肝疾患患者等が、各種の医療制度を利用しながら適切な受検・受診・受療・フォローアップ行動に結びつくよう、肝Co等の人材の活動を効率的に支援する資材を開発する。

## B. 研究方法

本研究班は、6つの課題について (i) 中央部門として是永・竹内（国立国際医療研究センター）、(ii) 地域部門として北海道地区：大原（北海道大）、東北地区：宮坂（岩手医大）、甲信越地区：佐藤・井上（山梨大）、関東地区：内田（埼玉医大）、芥田（虎ノ門）、玉城（武蔵野赤十字）、池上（東京医大茨城医療C）中部地区：玄田（順天堂静岡）、北陸地区：平松（福井県済生会）、関西地区：飯島（兵庫医大）、四国地区：河野（徳島大）、中国地区：日高（済生会山口）、九州地区：井出（久留米大）、田中（熊本大）、沖縄地区：前城・新垣（琉球大）、(iii) 非ウイルス部門として川口（久留米大）、前城・新垣（琉球大）、高橋（佐賀大）、藤井（大阪公立大）(iv) 評価・開発・展開部門として裴（ハイズ・慶應義塾大）、平井（大阪大）、米澤（東京肝臓友の会）、市田（ウイルス肝炎研究財団、研究協力者）、高橋（日本肝臓学会企画広報委員会）、島袋（名桜大）、川久保（佐賀大）からなる4部門が連携して、また班員の医療機関等の職種や配置が異なる全国の肝Coが研究協力者として参画して全国レベルでチームを構成し研究を行った（図1）。

全国レベルで5部門が連携してチームを構成（敬称略）

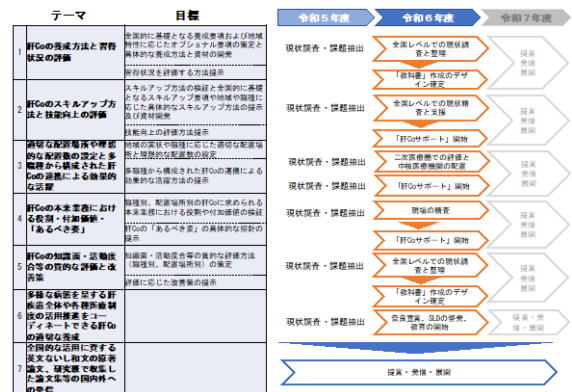


班員の医療機関等の職種や配置が異なる全国の肝Coが研究協力者として参画

## C. 研究結果

2年目は全国の肝Coの養成やスキルアップの方法において全国的に基礎となる養成要項となる地域特性に応じたオプション要項の策定と具体的な養成方法に資するため既存の当研究班のポータルサイトを全面

リニューアルし、さらに教本となる資料の制作を開始した。職種別、配置場所別の肝Coに求められる本来業務における役割や肝Coの研修受講ならびにスキルアップにより得られる付加価値について2つのコンテンツ開発を行ない、活用を開始した。また2つの部会として肝Co部会では、経験豊富な肝Co目線でモデル拠点病院でのスキルアップ事業支援を継続し高い評価を得た。患者肝Co部会では患者講義をまとめた記録集を発刊し、「患者・元患者・患者家族・遺族肝Co活動マニュアル」の作成を進めた。また多様な病態を呈する肝疾患全体や各種医療制度の活用推進をコーディネートしている肝Coの活動事例や課題を初年度に引き続き収集し、全国学会での発表や論文による発信を支援した。2年目の進捗（図2）とまとめを以下に示す（図3）。



### 1. 肝Coの育成の現状に対する研究班の取り組み

背景	肝Coの育成において地域や個人に差異がある
課題	肝Coの育成を行う際、以下の点において全国的な均てん化が必要である 1. 肝Co等の人材の養成と活用の推進 2. 各地で基本的な役割や活動内容について明確にした上で育成
研究班の取り組み	1: 肝Coの育成において都道府県ごとに様々な点において異なっていることを明らかにした 2: 自派の方法について3パターンに分類した 3: 上記を踏まえ育成の際に最低限必要な知識や活動の事項をまとめた「スタディブック」の制作を進めている 4: 職種ごとの「活動ガイドブック」「全国の活動事例マニュアル」を制作し、活用の普及を進めた

### 2. 肝Coの育成後の活動支援に対する研究班の取り組み

背景	肝Coの育成後の活躍に地域や個人に差異がある
課題	肝Coの育成後における活動支援として肝Co間の情報共有や連携しやすい環境の創出を進めなければならない
研究班の取り組み	1: 肝Coの情報ポータルサイトを知識や活動についてのこれまでのツールやコンテンツを活用し使いやすい形にリニューアルし、運用を開始した 2: SNSによるリアルタイムな情報共有や活動評価のためのツールとしてLINEを用いたシステムを構築し、運用を開始した 3: 患者肝Coによる学生講義の成果集を制作し、患者肝Co活動ハンドブックの制作を進めている 4: 経験豊富な全国の肝Coが地域のニーズにあったスキルアップ研修等のサポートシステムを開始した

## <研究成果>

### 1. 肝Coの育成の現状と課題への対策

肝Coの養成の方法や養成後のスキルアップ方法については、その主体となる自治体ごとに非常に多彩なプログラムで行われて





## 2. 肝 Co の育成後の活動支援

標準化をめざして肝 Co 情報ポータルサイトを知識や活動についてのこれまでのツールやコンテンツを活用しやすい形にリニューアルし、令和 6 年 11 月 1 日から運用を開始した。肝 Co 向けには、1) 肝疾患の医学的情報、2) 活動支援のための情報サイト、3) これまでの活動支援資材・ツール、4) 特徴ある取り組み紹介、5) 提言、成果物、6) 活動事例集、動画（まとめやインタビュー等）、7) 関係の政策研究班へのリンクとして、さらに肝 Co の存在と役割を社会へ広く発信するために一般向けへのサイトも構築した（図 15）。

2-1) 標準化をめざして肝 Co 情報ポータルサイトを知識や活動についてのこれまでのツールやコンテンツを活用しやすい形にリニューアルし、令和 6 年 11 月 1 日から運用を開始した



また SNS でも世代やデバイスを問わずわが国で最も用いられている LINE を用いた肝炎医療 Co 活動支援を立ち上げ情報共有や連携の推進のために 13 都道府県で活用しており、2455 名が参加している。具体的な情報共有の項目としては、1) 県からの制度や講演会の案内等の情報発信、2) 患者さんへの説明資料の供覧と肝 Co 自己研鑽用の情報発信を行う情報コンテンツ活動支援、3) 投稿フォームを使って活動報告を収集する肝 Co の活動報告（肝 Co れば投稿フォーム）、4) 活動アンケート調査、研修会参加状況の把握を目的とした活動評価である（図 16）。

2-2) SNS を用いた肝炎医療 Co 活動支援を立ち上げ情報共有や連携の推進のために活用している（13 都道府県、2455 名参加）

LINE 肝炎医療コーディネーター活動応援団

- 1) 情報発信・・・県からの制度や講演会の案内等の情報発信
- 2) 活動支援・・・情報コンテンツ（患者さんへの説明資料の供覧と肝 Co 自己研鑽用の情報発信）
- 3) 活動報告・・・肝 Co の活動報告（肝 Co れば投稿フォーム）
- 4) 活動評価・・・活動アンケート調査、研修会参加状況の把握

現在までの状況

友達登録数 2455 人

有効友達数 2224 人（ブロック 231 人（9.4%））※LINE 公式アカウントの平均ブロック率は 20%～30%程度

送信回数 250,737 回（2020 年 10 月～2024 年 12 月）

登録都道府県 北海道・新潟・埼玉・千葉・茨城・兵庫・奈良・山口・佐賀・熊本十研究班十一般（※熊本・佐賀は自走化し、それぞれの県で管理）

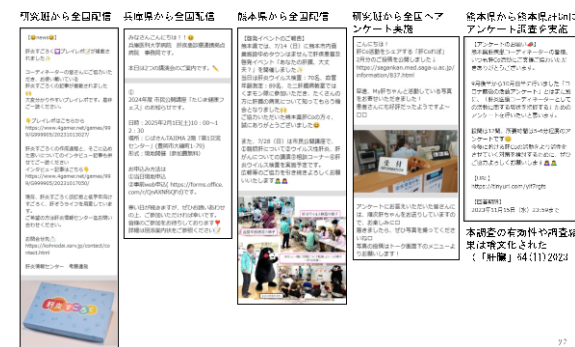
独自 LINE 山梨・沖縄・徳島（本年より開始）

情報共有や連携の推進を目的として運用している LINE の画面は、上段の情報発信欄と下方の各種情報発信欄（リッチメニュー）で構成される。情報は厚生労働省や肝炎情報センター、日本肝臓学会等の情報源へ誘導している（図 17）。



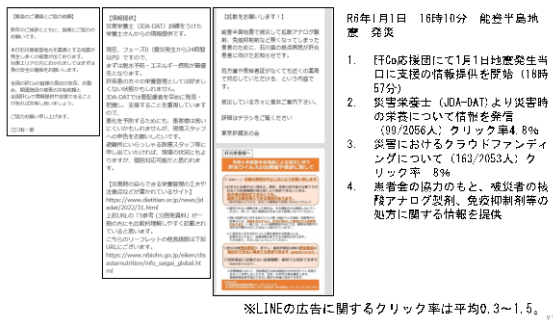
また LINE の機能を用いて、各種の情報提供、活動報告、研修会や講演会、啓発イベントの告知としての活用し、活動の実態調査もアンケート形式で行うことが可能であることを確認した（図 18）。

各種の情報提供、活動報告、研修会や講演会、啓発イベントの告知としての活用し、活動の実態調査もアンケート形式で行うことが可能である



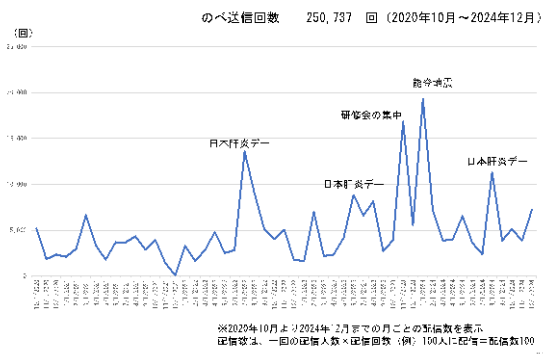
さらに R6 年 1 月 1 日 16 時 10 分に発生した能登半島地震では、LINE「肝 Co 応援団」を用いて地震発生当日に支援の情報提供を開始（18 時 57 分）し、JDA-DAT に所属する災害栄養士でもある肝 Co から災害時の栄養について情報を発信され 2056 人の登録者のうち 99 人が情報に接触していた（クリック率 4.8%）。また患者会の協力のもと、被災者の核酸アナログ製剤、免疫抑制剤等の処方に関する情報を提供した。SNS を用いた情報共有の仕組みは災害時などの緊急連絡網としても活用され有意義であることが確認された（図 19）。

**SNSを用いた情報共有の仕組みは災害時などの緊急連絡網としても活用され有意義であることが確認された**



LINE「肝 Co 応援団」の全国でそれぞれ発出された情報発信数を以下に示す（図 20）。

**LINEによる情報の発信数の推移**



肝 Co の構成員として患者等は、令和 4 年度の調べでは 29 都道府県で養成され増加の一途を辿っており、活躍が期待されており活動推進についてのマニュアルやハンドブック等が求められる。そこで肝炎患者等

（患者、家族、遺族等）の肝 Co の活躍の推進のために患者部会を立ち上げ、最初の成果として患者講義の感想文をまとめた「肝炎患者から学生さんへ」を完成し、日本肝臓学会総会での展示、全国展開を開始した（図 21）。現在、患者らの肝 Co の活動ハンドブックの制作を進めている。



医学部、健康学部、薬学部など100名の学生の感想や学びを記載、28ページ

また患者肝 Co の活動の注目される事例として以下の 5 活動が実際に行われている。

- 1) 患者 Co が医療機関における肝臓外来で通常の外来診療に併せて、肝臓ピア外来を行い、様々な問題を抱えた患者や家族に対して肝臓専門医がピア相談を提案し、相談者は診療通常の外来診療で医師に相談しにくい内容を相談し、日常生活や治療に関する不安の解消に貢献している。
- 2) 患者 Co が医療機関で行う啓発事業に参加し、実際に啓発ブースに立ち、啓発資材配布や肝炎ウイルス検査実施への声かけなど医療機関のスタッフらと啓発事業を行っている。
- 3) 患者 Co が自治体主催の肝 Co 養成研修会やスキルアップ研修会、市民公開講座で講師として登壇し、パネルディスカッション等に参画している。
- 4) 患者 Co が医療者や医療機関が作成する啓発資材や情報提供において、患者目線でのブラッシュアップを請けている。
- 5) 患者 Co が肝臓専門医療機関へサーベイし、医療機関としての質の向上の推進へ助言を行っている。

肝 Co 主導型スキルアップ研修会サポートプログラム「肝 Co サポートプログラム」を開始し、都道府県で開催されるスキルアップ研修会の開催支援を開始した。「肝 Co サポートプログラム」の主要パッケージとしては、

- 1) スキルアップ研修会を開催する各拠点病院からサポート依頼を受ける。
- 2) 今後の自走化のため、あくまで主体は開催県の肝 Co とし、サポートする肝 Co は相談役となる。
- 3) 地域が抱える課題や肝 Co の活動状況を踏まえて研修テーマやゴール設定を行う。の3ステップであり、実証実験として茨城、兵庫、徳島、福岡、奈良、北海道で実施した。また徳島県の医療機関で実施した本プログラムの実施の様子はポータルサイトで公開している。また本サポートプログラム開始後、阿南厚生病院（徳島県）、大牟田市立病院（福岡県）、名寄市立総合病院（北海道）等で院内肝 Co チームの立ち上げ等も支援を開始し、一定の成果を上げている。本サポートプログラムの考え方を以下に図示する（図 2 2）。

#### 「肝 Co サポートプログラム」の主要パッケージ

1. スキルアップ研修会を開催する各拠点病院からサポート依頼を受ける
2. 今後の自走化のため、あくまで主体は開催県の肝 Co とし、サポートする肝 Co は相談役となる
3. 地域が抱える課題や肝 Co の活動状況を踏まえて研修テーマやゴール設定を行う

<b>01 満足度と自覚</b> 参加者の参加目的が達成できる内容の検討	<b>02 活動への展開</b> 研修会終了後すぐに実践に移せる具体的な活動内容の蓄積
<b>03 研修に積極的に参加</b> 参加者も企業内でも研修に積極的に取り組み、習得度を向上させる	<b>04 仲間づくり</b> 顔の見える関係作りと連携の強化

- ✓ 実証実験として茨城、兵庫、徳島、福岡、奈良、北海道で実施した
- ✓ 本プログラムの実施の様子はポータルサイトで公開している（徳島県）
- ✓ 院内肝 Co チームの立ち上げ等も支援を開始している

## D. 考察

### 1. 肝 Co の育成の現状と課題への対策

47 都道府県で養成研修会およびスキルアップ研修会が開催されており、それぞれの研修会において都道府県で開催方法、内容、確認テストの有無が決められていた。拠点病院の関わり方についても都道府県で異なることが明らかになった。Co 研修に関

する認定期間の有無や期間についても都道府県で異なっていた。Co の研修内容に地域性があり、背景として地域の肝疾患の違いがあることが推定された。上記の都道府県ごとの差異は非常に多彩であり、地域性を鑑みて必須項目と選択項目をランク分けした問題集形式のテキストを制作している。また職種別マニュアル（ことはじめ編）を公開し、活用を開始した。

職種別マニュアル（応用編）を公開し、活用を開始した。最終年度は全国の肝 Co の養成やスキルアップの方法において全国的に基礎となる養成要項となる地域特性に応じたオプション要項の策定と具体的な養成方法に資するための教材として知識の確認を行いながら学べるように問題集形式を取り入れたテキストを完成させ、全国展開を行い、その意義を確認する。また肝がん十度肝硬変の治療費助成制度等、肝疾患に対する様々な制度のさらなる活用を進めるための使いやすい運用マニュアルの制作も進めている。

### 2. 肝 Co の育成後の活動支援

標準化をめざしてポータルサイト「肝 Co と仲間たち」を全面リニューアルし、公開した。肝 Co の知識面・活動度合等の改善に資する情報発信や評価、Co 間の連携構築、促進のための SNS の活用として LINE を用いて「肝 Co 応援団」の活用が進み、一定の評価を得ている。

SNS を用いた情報発信の優位性として現在、世代を超えて広く用いられる手段であることから情報が比較的容易に、また速やかに個々へ届けられることが挙げられる。今回の研究では、総務省等の調査結果でわが国では最も使用率が高い SNS である LINE を用いて「肝 Co 応援団」を立ち上げ、多くの肝 Co が登録することで、個々への情報発信が可能となった。また国や自治体からの正式な通知文書等を PDF や Word、写真データで LINE を用いて幅広く発信し、拡散する

ことが可能となるだけではなく最新情報や活動共有でき、さらにLINEを通じて従来の現地参加の研修会や講演会に加えてURLへのアクセスによって全国のWEB研修会にも直接の参加が可能となったことから、これまで存在した課題としての距離の問題も軽減された。またLINEの機能やURLから別のシステムに遷移することでアンケート調査も全国レベルでの実施が可能となった。課題としては運用コスト面が挙げられるため、できるだけ費用を抑えた方法を試行している。

また肝Coとして患者会や自治会等の活躍の推進に資する方策の開発を推進するために肝炎患者等（患者、家族、遺族等）の肝Coの活躍へ向けて患者部会を立ち上げた。まず患者講義の感想文をまとめた「肝炎患者から学生さんへ」を完成し、日本肝臓学会総会での展示、全国展開を開始しており、養成研修会やスキルアップ研修会での教材や副読本として活用されている。現在、患者らの肝Coの活動ハンドブックの制作を進めている。

さらに全国各地の活動支援として経験豊富な肝Coや専門医による「肝Coサポートプログラム」を開始した。これまで養成研修会やスキルアップ研修会等で活用可能な資料やコンテンツを開発し、提供してきたが、それらの活用方法や会そのものの企画、準備、運営について肝疾患の相談窓口や担当者で行うことは容易ではないことが明らかとなった。そこで先進的に行なっている施設の協力可能な肝Coらを研究協力者として招聘し、支援の要望がある施設や自治体に派遣して、養成研修会やスキルアップ研修会の開催を支援することが有意義であることも確認された。そのプロセスについてもマニュアルやコンテンツとして制作の準備を進めている。

## E. 結論

全国レベルで肝Coの育成と活躍の推進の

支援や活動状況を把握し、肝Coの養成の方法や養成後のスキルアップ方法、配置場所に応じた効果的な活動の方法、肝Co間での情報共有や連携を推進する様々な方策の構築を進めることができている。また各医療制度の活用については地域間・施設間格差を無くし、均てん化に資する方策について資料やコンテンツ等を制作し、全国展開を進めている。最終年度は多様な病態である肝疾患患者等が適切な受検・受診・受療・フォローアップ行動に結びつくよう、残された課題を把握し、肝Co等の人材の活動を効率的に支援する資料や方策を開発し、全国展開を行う。

## F. 政策提言および実務活動

### <政策提言>

「第34回肝炎対策推進協議会」（令和7年3月7日）にて「肝炎医療コーディネーターの育成と育成後の活動支援」についての研究発表、及び今後の活動の提言を行った。

### <研究活動に関連した実務活動>

#### 1. 情報発信

上記の成果物の開発に加えて、肝Coの活動促進を促すため班員や研究協力者が主催する複数の全国レベルの学会での肝Coを中心としたメディカルスタッフセッションを開催の企画を頂戴し、班員および研究協力者による積極的な情報発信を行い、全国での活動共有を促進することに努めた。

今後は、第61回日本肝臓学会総会等を中心に開催準備を進めていく。

#### 2. 均てん化に向けた取り組み

全国各地の活動支援として経験豊富な肝Coや専門医による「肝Coサポートプログラム」を進め、全国での活動推進を進めている。

#### 3. 自治体支援

「兵庫モデル」「沖縄方式」「奈良モデル」等の構築継続に向けた支援を実施している。

#### 4. 書籍

1. 肝炎医療コーディネーター（肝Co）職種別活動ガイドブック（初級編）（A4版、全67ページ、フルカラー、職種数15職種）（執筆者66名）

(<https://kan-co.net/cms/wp-content/uploads/2024/10/all-guide202410.pdf>)

## 2. 肝 Co 職種別活動事例リーフレット

(事例編)「肝ぺ」(A4版、全56ページ、フルカラー、職種数14職種)

(<https://kan-co.net/cms/wp-content/uploads/2024/10/kanpe-all.pdf>) (執筆

者: 職種別座談会より66名+全国肝Coより54名+全国LINE活動調査より152名)

## 3. 「肝炎患者から学生さんへ～患者肝炎医療コーディネーターが伝えたいこと～」

(A4版、全24ページ、二色刷)

(<https://kan-co.net/cms/wp-content/uploads/2024/08/kanjyakougi.pdf>) (執筆

者: 鈴木和彦・及川綾子・米澤敦子)

## G. 研究発表

### 1. 発表論文

#### 1. 看護教員による肝炎医療コーディネーター研修を活かした「慢性肝疾患患者への看護」に関する講義の教育効果(原著論文)

川久保 愛(佐賀大学 医学部生涯発達看護学講座), 古賀 明美, 江口 有一郎 肝臓(0451-4203)65巻4号

Page172-178(2024.04)

### 2. 学会発表

#### 1. 拠点病院肝疾患センター管理栄養士が考える肝炎医療コーディネーターとしての役割と課題 原 なぎさ(佐賀大学 医学部附属病院 肝疾患センター), 磯田 広史, 井上 香, 大枝 敏, 矢田 ともみ, 江口 有一郎, 高橋 宏和肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A323(2024.04)

#### 2. 非アルコール性脂肪性肝疾患患者における健康的行動継続のための「機会」に着目した支援の方策 柴山 薫(佐賀大学 医学部看護学科), 坂 美奈子, 坂本 貴子, 矢田 ともみ, 江口 有一郎, 高橋 宏和 肝臓(0451-4203)65巻

Suppl.1 Page A268(2024.04)

#### 3. 総括「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」

におけるスキルアップ方策の計画 江口 有一郎(ロコモディカル総合研究所), 矢田 ともみ, 江口 祐子, 松本 美さと, 米澤 敦子

肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A248(2024.04)

#### 4. 全国の肝炎医療コーディネーター養成研修会における患者会や患者団体の参加状況と養成研修会での先進的な取り組みに関して 米澤 敦子(東京肝臓友の会), 江口 有一郎, 矢田 ともみ,

磯田 広史 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A247(2024.04)

#### 5. 肝Co主導型スキルアップ研修会サポートプログラム「肝Coサポートプログラム」(会議録)矢田 ともみ(ロコモディカル総合研究所), 會田 美恵子, 立木 佐知子, 橋本 まさみ, 池上 正, 江口 有一郎 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A247(2024.04)

#### 6. 兵庫県における肝炎医療コーディネーターの現状と問題点 兵庫モデルの構築を目指して(会議録)飯島 尋子(兵庫医科大学 消化器内科学), 上田 佳秀, 植田 勝明, 高嶋 智之, 西村 貴士, 福西 新弥, 榎本 平之, 狩野 春艶, 上野 聖子, 米澤 敦子, 尹 聖哲, 江口 有一郎 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A240(2024.04)

#### 7. 多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究(会議録) 江口 有一郎(ロコモディカル総合研究所), 矢田 ともみ, 米澤 敦子 肝臓(0451-4203)65巻 Suppl.1 Page A236(2024.04) 2024276238

#### 8. 歯科領域における肝炎対策の実態調査と課題解決について(会議録) 河野

豊(徳島大学 大学院医歯薬学研究部実践地域診療・医科学消化器内科), 四柳宏, 江口 有一郎, 湯本 浩通, 舞田 健夫, 高山 哲治 肝臓(0451-4203)65 巻 Suppl.1 Page A232(2024.04)

9. 地域の小規模病院の役割としての大学病院医局のキャリア支援のあり方(会議録)

江口 有一郎(ロコモディカル総合研究所), 蒲池 さおり, 宮原 千賀, 小平 俊一, 矢田 ともみ, 松本 美さと, 山元 透江, 黒木 茂高, 高橋 宏和, 江口 尚久 肝臓(0451-4203)65 巻 Suppl.1 Page A220(2024.04)

10. 肝臓リハビリテーション:サルコペニアと栄養・運動介入の現状と課題 肝疾患患者の蛋白低栄養・サルコペニアの介入に対する効果判定時期の検討 栄養療法のフローチャートより(会議録) 原 なぎさ(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 江口 有一郎, 高橋 宏和 肝臓(0451-4203)65 巻 Suppl.1 Page A145(2024.04)

11. Hara N, Hiraoka A, Nakai M, Shiraki M, Namisaki T, Miyaaki H, Hisanaga T Takahashi H, Ohama H, Tada F, Sakamoto N, Nakao K, Takami T, Eguchi Y, Yoshiji H. Brief intervention for chronic liver disease patients with alcohol use disorder in a hepatology outpatient unit: Effects and limitations. Hepatol Res. 2024 Nov;54(11):1099-1105. doi: 10.1111/hepr.14060. Epub 2024 May 27. PMID: 38801372.

### 3. その他

#### 啓発資材(連携班にて作成)

肝Co養成研修会・スキルアップ研修会教材

1:「肝炎医療コーディネーターポケットマニュアル(改訂版)」

2:「肝炎医療コーディネーター(肝Co)職種別活動ガイドブック(初級編)」

3:「肝Co職種別活動事例リーフレット肝ペ(事例編)」

4:「肝炎患者から学生さんへ～患者肝炎医療コーディネーターが伝えたいこと～」

#### 啓発活動

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし